

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のことばを掲載いたします。

志とは心の目指すところ、心の向かうところである。つまり目標だ。その志は低いよりも、高いほうがよい。志も何もなく、ウロウロ、ヨタヨタと低迷しているようでは、喜びが湧き出てこない。二度とない今日、そして明日である。この、かけがえない自分の人生、生命というものを、ピリツと張って生きぬいていくところに、喜びがある。そのピリツとした緊張感は、心の向かうところが高いとき、味わえる。

自分の志をより高く保つには、強い信念が必要だ。その信念は、日々の実践によって練り固められる。実践とは、まごころからの実行のことだ。材料のひとつひとつを集めるといふ実践。それをコツコツと分析整理するといふ実践。ソロバンを確実にほじいて、記帳を正しく行なうといふ実践。まごころをこめてご飯を炊く（スイッチを入れる）という実践。失敗は成功への資本とみて、十分に反省をしてかかるという実践……これらをつみ重ねていくうちに、信念がかたくなる。ただ「信念を強くせよ」と言われるだけでは、どうしようもあるまい。

できるかどうかは、やってみなければ分からないのは当然だ。しかし引き受けた仕事は「やりましょう」と素直に、そのまま



## 志は高く、頭は低く

丸山竹秋

スーツと受けて、そして全力をつくす。研究検討するのはよいが、キョロキョロ、オドオドとして雑念いっぱいでもやるよりも「よし、やるぞ」と、志のまま素直に実践する。そこに強い信念が湧き出すのである。その強い信念のままに、その志の実現ができるように、環境や事柄が動いてくる。ボンヤリしていたり「やれやれ、あかんワ」と無気力、腑抜けの姿勢では、何もできない。まわりも動かない。

今をつまらなく過ごすと、それだけ時間をロスしたことになる。あたりまえといえども、あたりまえだが、このところをよく凝視すると、今を充実して生きるのではないとそのつぎの今も充実できないことになる。

今はうまくいかぬから、又の時を待とうということがあるが、うまくいかぬというその今は、それだけの意味があるのであって、うまくいく、うまくいかぬの今の常である。うまくいかないから、今をロスしているわけではない。うまくいかぬ今の中に、反省も検討もできるわけである。つぎの機会を待つとは、待つ今の連続の中で、それとうとうの意義をもっている。

したがって、うまくいこうがいくまいが、この今にこそ永遠がこもる。

この今に永遠があるのだと自覚して、しっかりとその今を受けとめ、その今を愛し、また尊重しつつ、その今の中にこそ、わが生命ありと自覚することである。今のほかに自分の生活はないのだ。

（『あなたは生命の元を見つけたか』より）